

○馬場景子（名古屋工業大）中野典子（椋山女学園大）

正月の食べ物は、モチとおせち料理に代表とされるような行事食が一般的であると考えられている。しかしこの組合せが、正月の標準であるのが当然であるかのように思えるが決してそうではない。つまりこの組合せ以外の食が正月の行事食には存在しているのである。正月用にモチを搗かない地方や、正月にモチを食べない地方は日本各地に存在している。モチではなくうどんを食べるうどん正月、あるいはイモを食べるイモ正月といわれる正月料理を食している地域は存外、広範囲に点在している。

本発表では、正月料理の標準的な組合せ以外に焦点を当て、愛知県三河山間部を出発点として、長野県、静岡県を中心に正月にとろろ飯を食べる地域の調査を行ってきた結果を発表する。愛知県、静岡県、長野県では正月にとろろ飯を食することは、かなり一般的であった。この地域は、正月のとろろ飯に関しては、主なトライアングルを形成することが調査より判明した。このトライアングル地域の特徴としては「いも正月」のように正月3が日にモチを食べないで、いもを食べなければならないという禁忌事項を示す地域は少ないが、松の内には必ずとろろ飯を食べる習慣があった。さらにまたこの3県以外にもとろろを食べている地域があることも文献より明らかになった。

このように現在では均一化してしまっただと考えられがちな正月の食の側面を、明らかにしていくことで、地方色をもった正月料理が存在することを明らかにする。